

◆終活での習い事◆



よしだあきかず
吉田昭和（北九州市小倉北区）

会社生活を終え、七年半以上が過ぎた。安全・収益・品質ばかりを追った会社生活を終え、人生の残りを何かしなればと思つて、



た時、新聞を見て、仏像彫刻教室を知り、習う事にした。学生時代、図画工作は不得手であつた事から自分も驚いている。

現在七年以上取り組み、悪戦苦闘している今である。地藏菩薩のレリーフ等四体、白衣観音立像等三体が完成作品である。現在、阿弥陀如来坐像を制作中である。情けない事に、解らない事ばかりで、月一回の教室で、先生に手直しと、教えて頂く事ばかりで、私の作品の半分は先生の作でもあると言える。

念信寺をお参りに伺つた時、玄関に檀家の方が彫られた（白衣観音菩薩レリーフと立像仏像）が飾られており、拝見させて頂いた。その時、私もこれぐらい上手く彫れる様になれるだろうかと不安に思つた事があつた。



仏像教室の先輩の話では、製作した自分の仏像の一体を、自分の棺に入れると言ふ。私も

これに倣い、棺の中に入れてもらい、あの世で、亡き両親、兄妹に感想を聞きたいものである。それまでに自分で納得出来る作品が出来るように努力をしたいと思つている。

恥ずかしながら、写真掲載と言う事で、自作の白衣観音立像を掲載させていただいた。遠くから薄眼で観ていただけだと思う。



紘ちゃんの独り言

コロナ禍での発表会

おがひろてる
尾形紘光（添田町）

先日友達のF君よりハガキが届いた。内容は2月の終わりに添田町の公民館活動で、各サークルが合同発表会を行った時の写真が印刷されたものでした。添田町ではコロナ禍の為、公民館での練習や教室が出来なくなった上に、



発表の場である文化祭も中止となり、皆さん悶々とした日を送つていたが、コロナの状態も少し下火になったのでソーシャルディスタンスを取りながら、1グループ10分の時間の中での発表会であつた。私は、ハーモニカ教室の皆さんと一緒にハーモニカ合奏をしたが、久しぶり舞台での緊張感を味わい、何か気持ちがすっきりしたのを覚えてる。

発表会の中で特に印象の残つた出し

物は、作曲教室の皆さんである。30代から80代までの6名の方が自身で作詩作曲し、編曲は指導者の方が担当したそうだが、自分の歌を感情込めて歌つておられた。自分の作つた詩だから曲だから余計に強いものがあつたのだろうが、何名かの方は涙を見せながらの熱唱であつた。大半の方が全くの素人で、指導者の方も大変だつたであろうが、皆さんの苦勞と努力が報われた一瞬だつた。

余談になるが、冒頭に出てきたF君と、ハーモニカ教室で一緒のY君とは詩吟の流派は違うが各大会で常に交流があり、漢詩を一緒に勉強する仲間である。皆さんからは同年代ということもあり漢詩3兄弟と言われる程、仲の良い友達だ。

F君は老人施設の慰問をずっと続けおり、私にもハーモニカで加わつてほしいとの話をもらつていたが、コロナ禍で再開の目途がたらずにいる。残念であり、コロナが早く治まるのを願うばかりである。



何故かホツとする風景

あべまさのり
阿部正紀（吉富町在住）

最近テレビを観ていると、古い事、昔の事取材するためにテレビカメラがごく一般の民間人の家庭内に入り込む番組が多くみられる。

この場合、団地サイズの集合住宅や、

民間の賃貸住宅や、逆に広大な敷地を持つ豪邸ともいえる住宅に住む人達が登場するケースは少ない。ごく普通の少しの木々があり、普通の広さの庭があり、小さな門がある程度の家構えを持つ人が選ばれるケースが多いと思う。テレビ記者は和風の応接間に通され、座卓テーブルで取材を行うことになる。



テレビカメラは家内を撮影することが目的ではないので余り家内ものには映さない。だがフトした筈見でカメラが移動した際に掛軸の架かつた床の間やその隣にある仏壇の座る仏間が見えることがある。

イエス・キリストが祀られた間はほとんど見たことがない。筆者は床の間や仏間が垣間見えると、何故か非常にホツとした気持ち、安心感が湧いてくるのである。理由はまったく分からない。

和風の間には、多分長い年月を掛けて培われた日本そのものの良さ、懐かしさ、温もりが詰まっているのかも知れません。筆者も紛れのない日本の一員だと自覚しているので、自然にホツとせぬ。

読者の皆さんも必ずや、自らホツとできる事象、心持、風景をお持ちの事と思ひます。それらは自分の財産として大事にしたいものです。

